

【主な出来事】

- 民間データ会社 iData は、次期議会選挙において社会党46議席、ACUM25議席、民主党22議席獲得と予測。
- ドドン大統領はロシアを訪問しプーチン大統領と会談、モルドバ議会選挙を巡る状況などについて意見交換した。
- 2018年の国外からの個人送金は総額2166百万ドルで対前年比5.6%の増。

1. 内政

議会選挙

▼OSCE/ODIHR 選挙監視ミッションを開始

・15日、欧州安全保障協力機構／民主制度・人権事務所(OSCE/ODIHR)は次期議会選挙の選挙監視ミッションを開始した旨発表した。

▼我らの党、比例区候補者を登録

・16日、我らの党は中央選挙委員会に51人の比例区候補者リストを提出した。

▼在外投票所125カ所を設置予定

・18日、政府は、議会選挙のための国外の投票所を125カ所設置することを決定した(2016年には100カ所)。社会党は、ロシア国内で11カ所の投票所設置では少なすぎる旨、ロシアだけで少なくとも100カ所は必要である旨主張。

▼Promo-LEX 選挙監視レポート

・24日、欧米系NGOの Promo-LEX が選挙監視レポート第3弾を発表。主な内容は次のとおり。

・Promo-LEX 及び同選挙監視員達に対する誹謗、中傷が継続し、脅迫行為には警察や情報機関などの特定の政府機関も加わっている。

・これまで6つの政党が比例区への登録を完了し、5つの政党が登録手続きを継続中。小選挙区には403名が立候補し、その75%は政党からの候補者となっている。

・多くの候補者が選挙キャンペーン前から既に選挙活動を開始。行政機関のリソースが活用され(5件)、贈物が使われている(13件)。

・在外投票の投票所は125箇所とされたが、投票所の設置場所と数にかかる政府の決定プロセスは不透明である。

・有効期限が切れた旅券もしくはIDカードで投票を認めないとした決定が違憲か否かにかかる判断を憲法裁判所は早急に行うことを求める。

▼各党、選挙キャンペーン開始前の結団式を開催

・24日、キシニョフ市内で各党による選挙キャンペーン開始前の結団式が開催された。民主党は党本部前で式典を行い、プラホトニク党首、カンドゥ会議議長、フィリプ首相らがこれまでの成果や今後の政策などについて語った。議会前で式典を行ったACUMは、司法改革や汚職された役人、オリガルヒからのモルドバ国民の解放

を約束した。社会党は凱旋門前で式典を行った。

▼世論調査結果

・29日、民間調査機関 Association of Sociologists and Demographers が行った世論調査結果が発表された。政党支持率は、社会党40.5%、民主党15.9%、ACUM15.7%、ショール党3.6%、共産党2.9%、我らの党2.3%。

▼選挙結果予測

・30日、民間データ会社 iData が発表した選挙結果予測は次のとおり。

	合計議席数	比例区	小選挙区
社会党	46	22	24
ACUM	25	14	11
民主党	22	11	11
ショール党	5	3	2
共産党	0	0	0
我らの党	2	0	2
無所属	1	0	1

大統領

▼ドドン大統領、議会選挙への不参加を表明

・21日、ドドン大統領は、来る議会選挙には参加しない旨表明した。一方で、社会党を支持するための活動は行うとした。

政府

▼月額平均所得を6975レイに

・18日、政府は、2019年の月額平均所得を6975レイとすることを承認した。2018年比で825レイの増、2017年比で1375レイの増となる。

その他

▼民主党、年金生活者らに支援金

・22日、プラホトニク民主党党首は、年金生活者に対する支援策として、現在2000レイを下回る年金受給者については復活祭に合わせて600レイ受け取るようになる旨発表した。また、月額給与が2000レイを下回る家族は冬期に700レイの支援金を受け取るとの施策も発表した。

2. 外政

▼米務省、モルドバ議会選挙に関する声明発出

・16日、米務省はモルドバにおける議会選挙の実施について声明を発出し、議会選挙が自由かつ公平なプ

ロセスで行われ、選挙民の意志を尊重する透明性を持った結果が保障される形となるよう政権に求めた。

▼メレシュカヌ・ルーマニア外相のモルドバ訪問

・17日、フィリップ首相はモルドバを訪問中のメレシュカヌ・ルーマニア外相と会談。メレシュカヌ外相は、モルドバに対する支援の継続、インフラ・プロジェクトの完了に関心を示した。また、同外相は、モルドバはルーマニアのEU議長国期間中の最優先事項の一つである旨述べた。これに対しフィリップ首相は、国内の諸改革実施にあたっての支援とEU内でのモルドバの立場強化に向けたルーマニアのサポートを期待している旨述べた。

・また、同日、メレシュカヌ外相はウリアノブスキ外務・欧州統合相と会談。ウリアノブスキ大臣は、欧州理事会でのモルドバ関連文書の採択にあたってのルーマニアの好意的な対応振りに謝意を表しつつ、モルドバにおける選挙後の対EU関係活性化に意欲を示した。

▼ライチャーク・スロバキア外務・欧州問題相のモルドバ訪問

・18日、ウリアノブスキ外務・欧州統合相は、OSCE議長としてモルドバを訪問中のライチャーク・スロバキア外務・欧州問題相と会談。ライチャーク外相は、トランスニストリア問題における最近の展開に対する歓迎の意を示しつつ、トランスニストリア和平はスロバキアのOSCE議長にとっての優先課題である旨述べた。これに対しウリアノブスキ大臣は、ロシア軍の撤退、平和維持活動のシベリアンによる活動への変更に向けた協議実施にかかるスロバキアの支持を求めた。

▼ウリアノブスキ外務・欧州統合相のダボス会議出席

・22日、ウリアノブスキ外務・欧州統合相は、ダボス会議に出席するためスイスを訪問。23日、カシス・スイス外相と会談したウリアノブスキ大臣は、スイスの対モルドバ支援や対モルドバ投資について意見交換を行った。

▼ドドン大統領の訪露

・30日、モスクワを訪問中のドドン大統領はプーチン露大統領と会談。プーチン大統領は、ロシアはモルドバにおける議会選挙の結果や新しく成立する政権がドドン大統領の提案する両国関係に関する諸施策を支持するか如何に関わらず二国間関係をどのように進めるかを決めていく旨述べた。

・ドドン大統領は、次の政権はロシアとの関係を戦略的協力レベルに修復することに優先度をおくことになるものと確信するとした。ドドン大統領は、トランスニストリア和平はモルドバの独立と主権が尊重され、国際的に認められた国境の中でのみ達成される旨述べた。会談にはブラフ・ガガウズ自治区長官が同席した。

3. 経済

▼中国での投資誘致イベントにドラガリン経済・インフラ省次官出席

・16日、中国太倉市でモルドバへの投資誘致イベントが

開催され、経済・インフラ省からドラガリン次官が出席した。

▼2018年の海外からの個人送金額、1266百万ドル

・25日、モルドバ国立銀行は、2018年の海外からモルドバへの個人送金は総額1266百万ドルにのぼったと発表。対前年比で5.6%の増となった。

▼中国ZTE代表団のモルドバ訪問

・29日、フィリップ首相は、モルドバを訪問中の中国企業ZTEの代表団と会談を行った。ZTE側はモルドバにおける5Gテクノロジー実施への投資に関心を示した。

▼国内道路リハビリのため、政府は中信銀行と融資交渉の準備開始

・30日、政府は、国内道路のリハビリ計画に対する中信銀行(China CITIC Bank)との約228百万ユーロの借款契約交渉の開始を正式に承認した。

4. トランスニストリア

▼在モスクワ・トランスニストリア「代表部」の設置に關し、モルドバ外務省が声明発出

・23日、モルドバ外務省は、モスクワへのトランスニストリア「代表部」の設置について声明を発表し、モルドバ・ロシア関係を傷つけるものであるとした。また、そうした行為はモルドバの主権と領土保全を脅かすとし、ロシア政府に対しモルドバ・ロシア関係に否定的な影響を与えかねない事態を避けるために国内法、国際法に従うことを求めた。

5. 各種統計

▼国内弁護士の69%が司法の汚職を指摘

・23日、民間研究機関 Legal Resources Center が昨年12月に約300名の弁護士に対して行った聞き取り調査結果を発表。全体の69%がモルドバの司法はあらゆるレベルで汚職されていると答えた。また、81%が司法の独立が確立されていないと答えた。

▼2018年腐敗認識指数でモルドバは世界117位

・29日、国際透明性機構の腐敗認識指数2018においてモルドバは全180カ国中117位に位置すると公表された。2017年の122位から5つランクを上げた。

6. 対日関係

▼ヤロベニ地区病院に草の根無償資金協力で医療機材を供与

・30日、日本の支援で購入した医療機材のヤロベニ地区病院への供与引渡し式が行われた。総額約86,000ドルの支援で、超音波診断装置、ビデオ丈夫消化管用内視鏡装置、生化学自動分析装置が供与された。式典には好井大使が出席したほか、グルカ保健・労働・社会保障副大臣、カルマヌ・ヤロベニ県知事、病院関係者らが出席した。

(了)